

食とみどり技術センター 西浦地区

「食とみどり技術センター」を紹介します。同センターは、西浦地区の南方、みどりと自然豊かな丘陵の一角にあります。総面積 25 万㎡の広大な敷地には緑化展示園やイチヨウ並木などがあり、平日の昼間、ここを憩いの場に利用する方もおられます。府の研究機関として「環境の保全・再生・創造」をキーワードに、また近年の「食の安全」を求める府民の方々の声にも配慮して、盛んに試験研究・技術開発をおこなっているそうです。



その成果をいくつか紹介します。

ウメビーフ



皆さんは「梅ビーフ」ってご存知ですか。これは府内の畜産農家と梅酒メーカー（チヨウヤ梅酒）との協力により開発された牛肉のことです。これまで廃棄していた漬け梅を飼料に一割ほど混ぜ、牛に食べさせます。漬け梅に染み込んだアルコール成分が牛の食欲を増進させ、一般の牛肉と比べて栄養豊富で肉質のやわらかい牛肉ができています。この資源循環型の牛肉生産システムは、牛にも環境にも優しく、そして良質で安全・安心の牛肉をつくることができるとあって、まさに「一石三鳥」の成果があるといえます。

次に、私たちがよく見かけるイチジクですが、その接ぎ木栽培の実用化に初めて成功しました。研究では、まず病気に強く生育旺盛で果実生産に優れた台木を選ぶところからはじまり、感染を防いで、簡単に育苗できる接ぎ木法を開発、接ぎ木栽培に適した管理法を実証しました。接ぎ木栽培への関心は高く、各地からの見学者も絶えないようです。

同センターの取材のなかで、私たちが一番興味を引かれたのは「福祉農園」という施設です。その中には、車いすに座ったままでも楽に作業できる「立ち上げ花壇」や、高齢者の方の首・肩への負担を軽減する「昇降垣根」という設備が設置されています。そこでは、近隣の福祉施設を利用する方々がボランティアなどの皆さんと一緒に農園芸作業をしています。



福祉農園

府は「自立支援型福祉社会」への取組みの一環として、同センターをその拠点としています。この取組みには、農園芸作業を通じて高齢者・障害者の方々のケアするだけでなく、休耕田の増加など近年の農業にみられる後継者不足の問題を受けて、これらの方々に一役かかっていただくという狙いも含まれています。

その他、同センターは豊かな食とみどりについての最新情報や、農業に親しむ機会を広く府民の皆さんに提供するため体験教室を実施するなど、研究成果の普及活動にも力を入れています。併設の農業大学校では、新たな時代の変化に対応できる農業技術者の養成にも力を入れています。

こういった取り組みが、私たちの「食育」への意識を高めるきっかけにもなるのではないのでしょうか。

2.14 (土) 第14回羽曳野医療フォーラム

日本人女性の20人に1人がかかる病気「乳がん」
～学んでみませんか、乳がんの正しい知識～

日時：2月14日(土) 14:00 から (13:30 開場) 会場：羽曳野市総合福祉センター（市役所別館）3階会議室
主催：大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター、羽曳野市、大阪府立大学看護学部

乳がんは、日本人女性の20人に1人以上がかかるといわれ、近年では若い女性にも増えてきています。早期に発見すれば高い確率で治癒するがんであるにも関わらず、年々、死亡者数は増えていきます。

マンモグラフィによる検診の内容や、もし乳がんが見つかった場合の治療方法などについて、講演をおこないます。（詳しい内容は2月号広報でお伝えします）

【問い合わせ・申し込み】 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター（電話 957 - 2121）
申し込み受付は2月2日(月)から、電話で同医療センターへ